

# さ ざ ん か

第92号、2009年7月

また暑い夏がやってきました。去年の夏といえば北京オリンピックでしたが、今年の夏の主演は皆既日食でしたね。

それにもまして最大の話題はこれから行われる総選挙でしょう。政権交代がなるのか、どうか。民主党が優位だといわれているけれど、小泉さんが首相になる前までも今にも自民党は沈没しそうだったことを思い出します。そして、小泉さんが「自民党をぶっ壊しても改革をする」とぶち上げ、多くの国民がその迫力と云うか真剣さにだまされてしまいました。もしかしたら本当に政治はよくなるかもしれない。自民党も変わって、頑張ったものが報われる社会になるかもしれないと。そしてそのわれわれの期待の行き着く先が郵政選挙でしたね。どさくさにまぎれた小賢しい小泉チルドレンと呼ばれる上手く立ち回った議員が大勢誕生しました。郵便局を民営化するかどうか、ただその1点だけをわれわれ国民はつきつけられ、その内容もきちんと把握できないまま、夢の中にいるかのように小泉自民党に大勝利を与えたのが5年前でした。

私はいまだに、郵政民営化の意味が良く分かっていません。本当に国を二分するような議論であったのかどうか。急がなくてもゆっくり考えればすむ問題ではなかったのか。小泉竹中路線に乗った郵政民営化政策は国民にいまどんな有益さをもたらしているのでしょうか。小泉竹中路線の本家本元であり、彼らが信奉する米国のマネー至上主義路線が破綻したいま、結局われわれは彼らの唱える新自由主義というお題目に踊らされていたということになるのでしょうか。

だけれども、騙したやつも悪いが騙される方もまたバカだ、と思えばある面、小泉劇場を痛みを耐えてまで見てくれといわれ、はいそうですかと、小泉さんの言うままに裕福でもない生活の中からそれ相応の入場料を払ってまで彼の劇場を見続けたわれわれ国民も愚かだったのだと云わざるをえません。賢い国民になるのは難しい。簡単にマスコミに踊らされていると分かってはいても、分かっていながら踊ってしまうのが現代日本人の国民性なのかもしれませんね。いや本当には分かっていないのかもしれませんが。

現代の最大の疑問のひとつ。日本国民は賢いのかバカなのか。私は絶対に賢いと信じてはいますが、時々そのことに確信が持てなくなってしまうます。もしかしたら、バカか

も・・・と。

いずれにしろ政権交代と云う出来事は、この現在の閉塞感からは脱却できそうですが、政権交代したにしても、更に閉塞状況におちいるのか、あるいは本当に開放されるのかは分かりません。大事なことは、おそらくいっぺんには良くならないだろう、政権交代ですべてがバラ色になるという幻想だけは持たない方が良いだろうということではないでしょうか。

少なくとも自民党に60年近く辛抱して任せた懐の深い国民なのですから、新しい政権にも3,4年くらいの時間をあげてその間はじっと見守ってみたいものです。もっとも、また、前回の小泉劇場のようなサプライズがあり、政権交代はおこらずに自民党中心の政府が続くかもしれません。

いずれにしろ暑い夏になることは間違いなさそうです。

それはともかく、すでに熱中症で救急車で運ばれた等々のニュースが散見されるようになりました。暑い日、みなさまくれぐれもご自愛なさってこの夏を元気に乗り切ってください。

---

---

### 俳句

西屋敷喜美子

梅雨さ中 硬張る五体 齒科の椅子

夏草や シルバーさんに 刈り取らる

夏の雲 有名知事の 野心かな

---

---

### 病院からのお知らせ

- \* 新型インフルエンザはいまだおとろていません。伊佐地方でも発症しているようです。このまま、手洗い励行はそのまま続けましょう。発熱して心配な方は、まず保健所の発熱相談センターにご相談ください。
- \* 神経内科外来は火曜日が鹿児島大学からの神経内科専門医が担当し、それ以外の曜日は高橋先生の担当になります。

- \* 毎月第 3 金曜日の血液外来は前院長の野村紘一郎先生の担当になります。その他肝臓病外来（4 月から月 2 回に増えます）、糖尿病外来（月、金：福重先生）の専門外来も開設しております。
- \* 4 月から下記の医師が新しく赴任しております。よろしくお願いいたします
  - 内田章文：平成 15 年 自治医科大学卒業
  - 隈元朋洋：平成 16 年 鹿児島大学卒業
  - 堂嶽洋一：平成 19 年 自治医科大学卒業
- \* 7 月から放射線科部長が交代いたしました。新任は上野和人先生です。よろしくお願いいたします。
- \* 脳神経外科外来について：4 月からはやむなき事情により週 1 回金曜日になっております。担当医師などの詳細は脳神経外科外来でお尋ね下さい。
- \* 骨密度、測ってみられましたか？ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でおたずねください。適切な治療で骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。骨密度を上げるお薬を服用している方は、骨密度が上昇したかどうか確認してみてもいかがでしょうか。骨折予防は寝たきり予防につながります。骨年齢：あなたの骨は〇〇歳です。という表示が出ます。
- \* MRI で脳の検査をしてみませんか？目的は脳卒中や認知症（ボケ）の予防につながるからです。また、脳動脈瘤の発見にも威力を発揮します。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。無症候性の病変（症状はないけど梗塞がある）がみつかると予防の治療を開始した方もおられます。寝たきりや認知症にならないためにも一度は検査されることをお勧めいたします。
- \* MRI は腰痛の検査にも威力を発揮します（脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなど）。あるいは肩こりや手のしびれの原因を探すのにも有用です。精密検査希望の方は神経内科外来にてご相談下さい。
- \* 新式のマンモグラフィーが導入されております。乳がん検査に威力を発揮いたします。乳がんが気になる方は外科外来へお申し出ください。
- \* 「さざんか」への投稿をお待ちしております。まったくの素人集団の手作り広報誌ですから、巧拙は関係ありません。思い出作りに、是非、一度は投稿してみても如何でしょうか。辞世の句とかも大歓迎です。意外とかしこまってる句は残しにくいものですので、気楽にさざんかにこっそり残してみてもいかがでしょうか。

---

## 臓器移植について考えてみよう

---

カラーマン（とその女）

日頃臓器移植には全く関心のないように見える国会議員のセンセイ方が、ここに来て一

部の人達であることには変わらないが、臓器移植法は重要法案でありやれどうのこうのと騒いだあげくに総選挙前のドタバタした雰囲気の中でこの法案は成立した。自分の選挙の心配ばかりしていてどこまで真剣に臓器移植法案に取り組んだかは、大いに疑問ありだ。

臓器移植法は選挙絡みで大騒ぎするような法律ではないと思うし、そもそも臓器移植そのものについての是非を考える機会が少ないから今回はこれについて考えて見よう。

(なんか、カラーマンシリーズも高尚になってきたわねえ、臓器移植ですって。でも、このクソ暑い夏には、ギャグぼいのがいいなあ。楽しいものが・・・あるいは、超コワイ怪談とか都市伝説とかが)

や、やっぱりそうだよな。私もそう思うのよ。楽しいものが一番だもんなあ。でもなあ、ギャグは難しいのだよ、カラーマンのオンナさん。文章で笑いを取るのは至難の業なんだよ。お気軽テレビのおばかキャラたちみたいに、安易にはいかないのだよ。

京極夏彦がギャグ小説と銘うって、1, 2冊書いていて、まあそこそこは面白いが、彼の本領のミステリー系（或いは妖怪系もしくは教養系）と比べると、出来栄としては比べようがないほどまずい。

笑いは難しい。人をバカにして取る笑い、自分を落としめて取る笑い、言葉のアヤを利用する笑い。まあ、学問的には色々な笑いの種類があるのかもしれないけど（縦系の笑いとか横系の笑いとか）、笑いそのものは生きていく上では必ずしも必要ないように思える。

生涯殆ど笑わないで過ごす人間がいても、まあ、不思議ではない。（そ、そうよねえ。この人、何が楽しくて毎日生きてるんだろう、と思う人っているものねえ。でも、向こうから見たらこのバカは何を毎日へらへら笑って過ごしてんだろうか、と思うのでしょうかね。）

ユーモアも笑いにふくめるならば、人生をより豊かにしてくれるものが笑いであろう。あるいは、本当に絶望の淵から、人間を立ち直らせてくれるのは、上質な笑いとかユーモアなのではないだろうかと思うこともあるよね。それは、芸術とかスポーツとギャンブルとかアルコールとか、日常の実際では生物学的に生きていく上では必要ないけれど、より味わいのある人生を送るためには必要なものと同等なのかもしれない。

というより、笑いはそれらの共通のキーワードとして存在しているような気がするね。笑顔と芸術、笑顔とスポーツ。シドニーオリンピックの女子マラソンで勝利のゴールテープを切ったときのQちゃんの笑顔は忘れられないね。

お酒飲むのも大体は笑うため、といえは笑うためだろう。でも、お酒の場合は、そのほ

かに愚痴ぐち言いはなしのヤツとか、、とか泣き上戸とか、怒りっぱなしのヤツとか、いろいろあるか。まあ、そういみでもお酒はいいね。酒は人生の友だ、いや先生だ。(ふん。酒飲みはみーんなそういうけど、飲まない人から見たら、みーんなアホだわ。飲んでいい気になってるだけ。なんでもお酒でごまかすんじゃないわよ！ていいたい場面ばかりだわ)

人生最後の場面で、「お先にー」「あんたもはよ来いよー」「まっとるぞー」「お前きらいだから、しばらくはコッチに来るなよ」とか、冗談が言えればいいなあ、と私は思っているし、できたらそうしたいと願っている。

(そうよねえ。難しいわねえ。死は、後ろ向きに考えはじめるとどこまでも深刻にならざるを得ない恐ろしい体験であることは、それは間違いのないことだものねえ。でも、前向きな明るい捉え方も勿論あるわけだしねえ。地球の幾億万の生命からみれば、あるいは、悠久の時間から見れば人間の命なんてほんの一瞬のちっぽけな存在だし、一方で、その人の家族や愛する人からみれば何者にも換えがたい大きな存在になってしまうものね。アフリカの 100 万人の飢餓状態の子供の命よりじぶんの家族の命が大事だと本気で思うのは、普通だし、当たり前なものね。命は時と場所次第で決して対等ではなくなるのだわ)

その命がなくなることを「死」というのだ。人間の「死」とはなんだろう。脳死は人の死なのか。脳みそが働いていなければ、その脳死の人の心臓を取り出して他の人に与えてもいいということになっているが、その思考過程・行動はわれわれに馴染むだろうか。

命ってなんだ。心臓が動いていることではないのか？ 脳みそが死んでしまえば、心臓が動いていても、その人はもう「死体」なんだろうか。脳みそが死んだ時点から、心臓や、腎臓や、肝臓や、筋肉や、脂肪や肺も一緒に死んだことにされるのだろうか。いや、死んでないからこそ、臓器移植ができるのだろうか。じゃあ、「死」体とはいえないのじゃないだろうか。ほんとうに、「脳死」すなわち「人の死」、なんだろうか。人の魂は脳みそにしか宿らないのだろうか。

わが子が心臓移植でしか助からない時、あなたはどうしますか。日本で臓器移植ができないのであれば、何が何でも、1億円を超える募金を募ってでもアメリカにわたりますか。

そしてアメリカの地で脳死のアメリカ人が出るのを願うのでしょうか。誰かの死を期待しなければならぬ状況は相当辛いものがある。移植すれば助かる人はまだいいけど、移植も出来ない病気の子供達(脳腫瘍とか脳の病気の場合)はどうしたらいいのですか。わが子の心臓の病気の場合は移植ができるけど、あなたの場合は脳の病気だから、移植は出来ないのだから、あきらめなさいと慰めるのでしょうか。それがめぐり合わせなのよと

自分の子供が、交通事故などで頭をやられ、脳死になったらあなたはどうしますか。このまま死んでただの物質になってしまうくらいなら、たとえ温かいカラダのままであっても心臓を取り出し、他の子にわが子の臓器を移植し、別の形で生き延びて欲しいと思いませんか、思いませんか。

わが子は死んでも、心臓を与えた子供の命が助かるならわが子がこの世に生を受けた意味が少しでも残るかも知れないと思いませんか、思いませんか。

ちなみに、臓器移植に同意したとしても誰にあなたの子供の心臓が提供されたかは、与えた方も、貰った方もお互いが一生分からない仕組みになっています。どこかでわが子の心臓が活着ていることは間違いないのですがその我が子の心臓を貰って生き生きと活着ている子供を遠くからそっと見守る、ということは許されてはいません。

人によっては、自分の子供の死の悲しみに打ちひしがれていて、他の子供に心臓を与えるなんてことを考える余裕はないかもしれませんね。でも、脳死の悲惨な状況の中の数時間でしか臓器移植は成立しないのです。3日考えてからでは移植はできない。考えるヒマは与えられていません。日頃からわが子が死んだ場合を想定して臓器提供を決めていないとなかなかその場での一瞬の決断は難しそうです。

総論賛成、各論反対。この壁を乗り越えられるかどうか。(ごみ問題もそうだね。ごみ処理施設を作るのは賛成だけど、自分達の地元で作るのは反対だという人々が多いわね)。他人が臓器移植して人の命を救うのは賛成だけど、自分の子供の、夫の、妻の、兄弟姉妹の臓器は心臓が動いている限り絶対にあげないわ、では臓器移植は進まないだろう。ほんとうに脳死は人の死か、その死体から臓器を移植してまで人は生き延びなければならないのか。あきらめて人間の天命だと受け入れることはできないのか。キリスト教文化社会と日本文化社会との死生観の違いがおおいに問題なのではないだろうか。などなど、沢山の考えたり話し合ったりしなければならぬ問題を抱えたままの臓器移植法の成立であった。

---

---

## 編集後記

---

---

事情により今月は投稿が少なく編集局主体の紙面づくりとなってしまいましたが、まあ、そんな事はどうでもいいか。それにしても、みなさん、暑いですなあ。何とかかなりまへんか？何ともなりまへんな！という訳の分からない関西弁あたりで暑さを紛らわすというのは・・・。全くくだらん避暑法でしたね。日々暑いなかご自愛下さい。(KT)

日食は見られましたか。本当に人の興味とか関心はさまざまだなあと思います。まあ、どうでもいいといえばどうでも良さそうにも思えるけれど、人によっては信じられないほどの興味と情熱を示していましたね。そこが人生の不可思議さ、楽しさなのでしょう。価値観の押し付けほど見苦しいものはない、ということでしょうね。